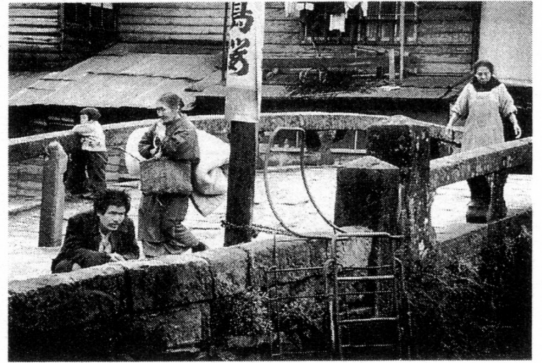


文 化



岡本太郎撮影、内藤正敏プリント「長崎 1957年」

「こんな日本! 岡本太郎が撮る×内藤正敏が撮る」より (神奈川・生田緑地、川崎市岡本太郎美術館、10月3日まで)

日本に帰化して「小泉八雲」と名乗った文藝者、ラフカディオ・ハーン(一八五〇—一九〇四年)が亡くなって百年。日本に関する英文の物語や随筆を書いたハーンは「日本の良き理解者」と評されてきた。だが最近はその近代化の中で失われつつある文化を積極的に評価した人物としてとらえ直す研究が進んでいる。

クレオール追求

ハーンは日本に来る前にカリブ海に浮かぶフランス領のマルティニーク島を旅している。平川祐弘・東大名書教授は今年刊行の「ラフカディオ・ハーン」(ミネルヴァ書房)で、その体験の重要性を指摘した。

同島ではフランスからの植民者、アフリカからの労働者らが種々言語を混交させていた。ハーンはマルティニーク島出身の研究

ラフカディオ・ハーン 没後100年



第二の文化着目 先駆性で再評価

口承文芸など 研究活発に

青い、ソロ・マルティネル氏が読み、ハーンのクレオール民話を書いていると突き止めた。マルティネル氏は「マルティニークの言葉や土地の人の考え方やその人間性、その貧困、歴史、記憶、土地の地理などを短い物語の中に要約している素晴らしい文化遺産」

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

「耳なし芳のはなし」など多くの怪談は妻の朗読を基にして生まれた。ハーンはフランスなど

耳で民話を採集

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

だど西氏は言っ

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

耳で民話を採集

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

だど西氏は言っ

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

耳で民話を採集

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

だど西氏は言っ

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

セツと結婚・帰化 小泉八雲に改名
ギリシャのイオニア諸島生まれ。父はアイランド人の英国陸軍軍医。母はギリシャ。両親の離婚でアイランド・ダブリンの大邸の下で育てられる。一八六九年から米国で新聞記者などをした。その後、九〇年日本へ。島根県尋常中学校、第九師団高等学校、東京帝大、早稲田大で英語・英文学を教える。九一年に小泉セツ(節子)と結婚。五年後に日本に帰化して小泉八雲と改名した。代表作に「心」(怪談)など。

島根・加賀浦 逗留した旅館の写真? ラフカディオ・ハーンが島根県加賀浦を訪れた時に逗留(とりのゆう)したと見られる旅館の写真が、このほど見つかった。ドイツ人哲学者で旧

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人



ハーンが逗留したとみられる加賀浦の旅館

交遊抄 毎年、誕生日にフィリピンから一おめ人の感性や心情を重視する彼女と、客観的事実関係を軽視できない私との間に研究上の対立もあった。一九九八年、フィリピン大学から名誉博士・アントニオさん。出号を授与され、総長主催の昼食会に出席した際は深刻な衝突の最中だった。

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わるものが多く、市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

今年六月、ハーンの漆削を受けた生徒の英作文として「ハーンが宿泊」と書かれていたのに気づいた。一九二五年に松江に来たカルシユはハーンと直接の面識はない。親しみを覚えていたハーンゆかりの場所を訪ねているうちに、逗留した旅館を見つけたらしい。

「賽(さい)の河原」で知られる加賀浦の藩戸(くげ)には両者とも興味を覚えていたという。若松氏は「ハーン研究の一助になれば」と話している。

没後百年の命日に当たる九月二十六日の前後、国際シンポジウム「世界のラフカディオ・ハーン」が東京大、早稲田大をはじめ、島根、熊本などゆかりの地で開かれる。八月には松江で小泉凡氏らが中心になり、ゆかりの地を訪ねる小中学生向けの講座も予定している。

日本では人気のあるハーンだが、英米の日本学者の評価は芳しくない。単なる「日本びいき」と見られたことも背景にあるのだろう。しかし、近年の研究を通じて、日本の専門家という枠に収まらなくなった。クレオール、ポスト・コロニアリズムなど、今日の文学、思想の最前線に通じる視点を持つていたいといえる。(文化部 中野稔)